

平成30年度静岡大学 職員海外研修報告書

研修期間：平成30年9月22日～30日

研修先：リトアニア共和国/スロバキア共和国

研修者：増田 智史（浜松総務課電子工学研究所総務係）

研修者：森部 圭亮（図書館情報課利用サービス係）

研修者：勝又 美枝（農学部総務係）

目次

- 研修目的…3
- 研修概要…4
- 研修日程…5
- 海外研修出発前の意見交換会…6
- リトアニア共和国…7
- Inter Academia2018…8
- カウナス工科大学…10
- Department for Internationalisation…11
- Library…13
- Human Resources Department…16
- スロバキア共和国…17
- 在スロバキア日本国大使館…18
- コメニウス大学…19
- Faculty of Artsと卒業式の見学…20
- 日本学科…21
- 文化研修（カウナス・ブラチスラバ）…24
- 全体の感想・まとめ…25
- 謝辞…26

研修目的

- 海外派遣研修(企画型)
- 目的：異文化を体験し、並びに研修等で習得した語学力を用いて海外の大学運営及び教育体制を理解するとともに、さらなる異文化理解、語学力向上等に努める意志の形成を図る。
- 内容：協定校、現地機関等における活動
(意見交換、調査、見学等を行う)
及びそのための事前・事後調査並びに報告

研修概要

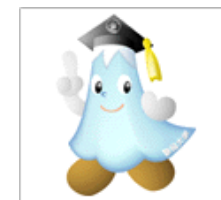
- インターアカデミア2018[IA2018]の見学（9/24-25）
 - 静大が毎年参加するIA2018のうち、初日、二日目を見学
- カウナス工科大学(リトアニア)のDepartment for Internationalisation、Library、Human Resources Departmentから情報収集（9/25）
 - 今回のIA当番機関で静大と大学間協定を締結しているカウナス工科大学を訪問
- 在スロバキア日本国大使館表敬訪問（9/27）
 - 昨年に石井学長が表敬訪問した、在スロバキア日本国大使館を訪問
- コメニウス大学(スロバキア)のFaculty of Artsから情報収集（9/28）
 - 静大と大学間協定を締結しているコメニウス大学を訪問
- コメニウス大学日本語学科で学生と情報交換（9/28）
 - 静大への留学経験者も在籍する学科で静大の説明や質疑応答

研修日程

日程	予定	備考
9月22日(土)	前泊(中部国際空港)	移動日
9月23日(日)	中部国際空港発 (AY080)	移動日
	ヘルシンキ・ヴァンター国際空港着	
	ヘルシンキ・ヴァンター国際空港発 (AY1105)	
	ビリュニス国際空港着	
	ビリュニス国際空港発(貸切バス)	
カウナス着		
9月24日(月)	Inter Academia2018の発表見学	Inter Academia2018の見学ツアーに同行
	カウナス工科大学施設見学 (SANTAKA Integrated Science, Studies and Business Centre)	
9月25日(火)	カウナス工科大学訪問	Inter Academia2018の見学ツアーに同行
	Sugihara house, Kaunas old city tour 参加	
9月26日(水)	カウナス発(バス)	移動日
	ビリュニス国際空港発 (OS834)	
	ウィーン国際空港着	
	ウィーン国際空港発(バス)	
	ブラチスラバ着	
9月27日(木)	在スロバキア日本国大使館訪問	
	文化研修	
9月28日(金)	コメニウス大学訪問	
	コメニウス大学日本語学科学生と市街地見学	
	ブラチスラバ発(バス)	
	ウィーン着	
9月29日(土)	ウィーン国際空港発 (AY1472)	移動日
	ヘルシンキ・ヴァンター国際空港着	
	ヘルシンキ・ヴァンター国際空港発 (AY79)[機中泊]	
9月30日(日)	中部国際空港着	移動日
	中部国際空港 → 静岡市・浜松市	

海外研修出発前の意見交換会

(2018.9.10 @国際交流課)



- コメニウス大学からの留学生、コメニウス大学への留学経験がある学生から出発前に情報収集
両国留学生視点での日本とスロバキアの違い、留学から得た経験や知見、今後の留学を検討している両国の学生に向けての提言など
スロバキアと日本の学生と面会とTV電話にて伺い、訪問に向けての心構えができた。
滞在期間は三日程度とわずかな日数だが事前情報を参考にすることで食事や移動、買い物等の心配もなくおおいに役立った。

リトアニア共和国

(Lietuvos Respublika/Republic of Lithuania)



- 1990年ソビエト連邦から独立
- 2004年EU加盟、2015年ユーロ導入
- 人口：281万人 首都：ビリニュス
- カウナスは首都ビリニュスに次ぐ第二の都市
- 杉原千畝と命のビザの舞台カウナス

第二次大戦中にナチス・ドイツの迫害を逃れた

多くのポーランド在住ユダヤ人が日本通過のビザを求めに
在カウナス領事館、杉原千畝領事代理のもとを訪れたこと
でも知られ、6,000人あまりのユダヤ人の命を救った
当時の領事館はSUGIHARA HOUSEとして残されている



Inter Academia2018①



- Inter Academiaとは

中東欧協定校と静岡大学(参加校14大学)との工学分野における国際会議
静大はアジア唯一の参加大学で2002年(第1回)から連続参加
浜松を会場に2007年(第6回)、2015年(第14回)の二度開催
今回はカウナス工科大学(KTU)が当番校でリトアニア・カウナスで第17回を開催
静大から木村理事、三村電研所長、原創造大学院長をはじめ29名の教職員
と大学院生が参加

- 研修内容(9/24-27の開催期間中二日間見学)

初 日：木村理事開会挨拶、三村電研所長招待講演
各セッション口頭発表の見学
SANTAKA Integrated Science,
Studies and Business Centreの見学
二日目：市内見学に帯同



Inter Academia2018②



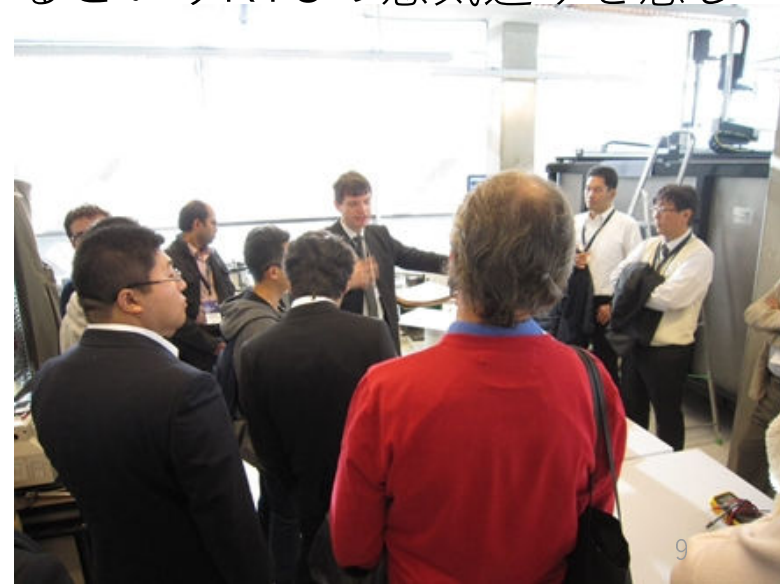
- SANTAKA Integrated Science, Studies and Business Centre

大学と企業の共同研究を推進、起業支援をするなど
静大のイノベーション社会連携推進機構のような役割。
研究室も配置され、室内で研究について説明を受けた。
産学連携に注力しているというKTUの意気込みを感じる
施設だった。

- 感想

主催側スタッフで学会、シンポジウムに携わることはあるが
参加者側で海外シンポジウムを見学できたことは、今後の運営時の
参考になった。

英語を母語としない多国籍の異なる研究者同士が"それぞれの"英語
で交流する場を生で見ることができグローバルゼーションを感じる
貴重な経験となった。



カウナス工科大学 (Kauno Technologijos Universitetas /Kaunas University of technology)



- 1922年設立。4キャンパスに9学部8研究所
- 2015年に静大と大学間協定を締結。Inter Academia参加
- リトアニアで最大、最古の工科大学でバルト三国では最大規模を誇る
- 学生数：10,895人(学部：7,895人、修士：2,648人、博士：352人)
留学生は約700人
- リトアニア国内で学生数は第3位
- 科学研究におけるリーダーシップ人材の育成、
学際的な学習プログラムの導入
- 産学連携にも力を入れている



Department for Internationalisation①



- KTUの留学生に向けたアピール点

欧州各都市から飛行機で2、3時間と交通の便がよい
バルト三国の工科大では名門

市街中心地にあり大学近郊の生活の便もよく、治安も良好
英語を話せれば学生生活に問題はない

- 留学生の状況

日本など東アジアからの留学生は極少数。他国からの正規生のうち半数以上がインド、つづいてトルコ、レバノンなどの中近東、アゼルバイジャン、ウクライナなどの旧ソ連圏ほか。


- 教職員の英語対応

“English Language Course”を大学が費用負担して用意し習熟度をはかり教職員の英語力を底上げしている。希望教員には自身の英語プレゼンを評価、指導するシステムもある。語学力不十分な職員を配置換したこともある。



Department for Internationalisation②



- エラスムス・プラスとは  Erasmus+
2014年～2020年を対象とした、EUの中心的な教育助成プログラム
学生の国境を越えた移動を促進することを目的としている
 - 成績やモチベーションをもとに選抜(熾烈というほどの競争ではない)
 - セメスターの途中で留学して、留学先で専攻の続きを学ぶことが可能
 - 留学先の履修単位も復学後に認定される
(留学生業務に対する知識が不足しており、内容理解しきれない部分があった)
- 静大とKTU間で、エラスムスプラスを用いての交換留学を準備中

Library ① 概要

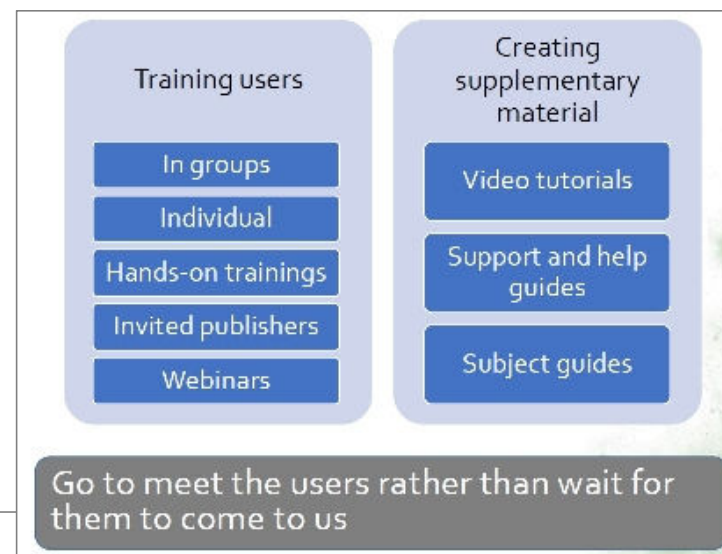
- Main Libraryと5 Faculty Librariesから構成されている
 - 今回訪問したのはMain Library。
- 図書館職員は48名で、係(に相当するグループ)は以下のとおり
 - Reader Services
 - Information Services
 - Research Information Services
 - Information Resources Management Services
 - Rare Publications Group
- 利用者用に、計687の席(Work-places)と119のパソコン
- 来館者数は年に約44万人。



Building of School of Economics and Business and Main Library

Library ② サービス・研修体制

- 多くのプラットフォームで学習支援を展開
 - Video Guides(Youtube)
 - Subject guides(図HP上)
 - Facebook
- 様々な講習会・ワークショップを開催している
 - 図書館の使い方
 - データベースの調べ方
 - 資料の検索方法
 - 学術コミュニケーションとオープンアクセス
 - 引用方法や著作権
- National Library Week
- 図書館職員への研修体制
 - 毎月
 - 館内職員の報告会
 - 他大学から講師を招聘
 - ベンダー
 - 毎週
 - 学内の英語講座



Library ③ サブジェクトライブラリアン

• サブジェクトライブラリアン

– ある特定の主題分野の知識に精通し、それを活かして図書館業務を発展させる図書館職員

→ 図書館資料およびサービスの案内・提供


→ 主題に関わる相談・補助

→ 教員と学生が必要とする情報の分析

ex.> 執筆した論文をどの学術雑誌に載せるか決める方法
インパクトファクターの特定方法

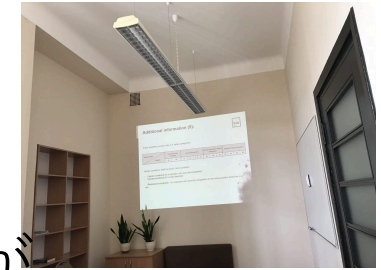
• KTU LibraryホームページのNews及びTwitterで私たちの訪問をご紹介いただきました！

<https://library.ktu.edu/news/guest-from-shizuoka-university-in-japan-visited-library/>

Librarian	Subject Responsibilities
 Vida Daškuvienė Subject Librarian +370 37 300654 vida.daskuviene@ktu.lt	Art Criticism , Education Science , Philology , Philosophy , Political Science , Sociology
 Rasa Dovidonytė Senior Information Manager +370 37 300659 rasa.dovidonyte@ktu.lt	Accounting , Economics , Finance , Management , Marketing
 Saloméja Getautienė Subject Librarian +370 37 300669 salomeja.getautiene@ktu.lt	Computers , Electronics Engineering , Information Systems
 Marytė Gradeckienė Head of Group +370 37 300199 maryte.gradeckiene@ktu.lt	Applied Chemistry , Chemical Technology and Engineering



Human Resources Department



- 教職員は約2,200人で学術スタッフ(教員、研究員)が約1000人、職員は1,200人程度
- 事務職員の71%がフルタイム、29%がパートタイムで従事
- 教員の採用は年間12名程度
- 働き方(勤務状況、休暇など)
 - 学術スタッフ(教員、研究員)は年間40日の有給休暇
 - 事務職員は年間20日の 休暇とクリスマス休暇を付与
 - 学術スタッフは勤務時間の半分は所定時間の授業割当があり
 - 残りは裁量で研究等に従事

スロバキア共和国

(Slovenská republika/Slovak Republic)



- 1993年チェコスロバキアから分離独立
- 2004年EU加盟、2009年ユーロ導入
- 人口：544.3万人 首都：ブラチスラバ
- 在スロバキア日本国大使館からの情報

在留邦人(在留登録者)は200人後半、日本企業は50社程度が進出。首都ブラチスラバはウィーンと隣接。中欧に位置し欧州各国への交通の便がよい。

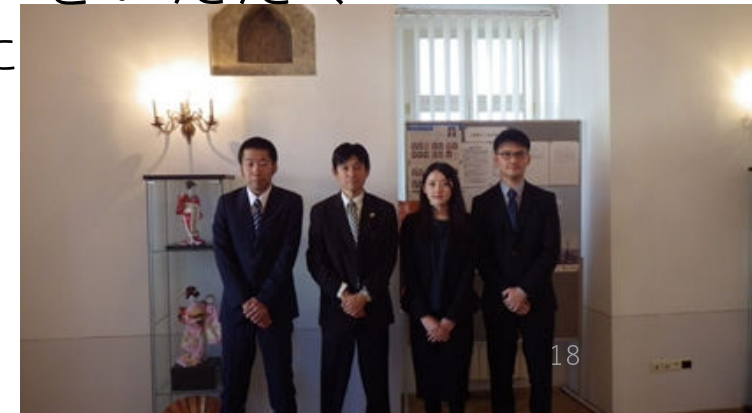
比較的良好な治安と物価の安さもあり、EU加盟・ユーロ導入後は労働力を求める西側資本の参入などで経済的な恩恵を受けた国の一つ。一方で保守的な国民性もあり、EU内でモスクが無い唯一の国家。





在スロバキア日本国大使館 (横田参事官、大草二等書記官を訪問)

- 昨年度、石井学長が日本の国立大学長では初となる在スロバキア日本国大使館への表敬訪問
- 静大からコメニウス大学への留学実績を説明
ここ5年で19人の留学実績は静大からは最多。帰国後の満足度も高いことに今後も良好な関係を続けたいとの回答
- 大使館からスロバキアへの留学生へのアドバイスをいただく
3ヶ月以上の留学では在留届の提出依頼、保険加入、緊急時に英語が話せる病院の重要性など
- スロバキア情勢など
日本ではあまり知られていないスロバキアという国について現地事情から歴史、国民性などをご案内いただいた



コメニウス大学

(Univerzita Komenského/Comenius University)

- 1919年設立とスロバキア最古で来年100周年を迎える。
- 13学部の総合大学でスロバキア最大規模
- 学生数約26,000人、うち正規生約21,000人
- 70カ国以上から約3,000人の留学生在籍
- 1999年に静大と大学間協定を締結。Inter Academia参加
静大からの派遣留学生は2008～2017の10年で30名にのぼる



Faculty of Artsと卒業式の見学

(Martin Slobodnik東アジア学科副学科長、Maria Gajarska Kucerova先生)

- スロバキアの大学事情

スロバキアには20の国立大と10の私立大があり、伝統校は国立大。

コメニウス大学も来年創立100周年を迎える。

教育予算は決して潤沢とは言えない

- 東アジア研究専攻

副学科長は中国、チベット地区を研究。日本語、中国語、韓国語の各専攻は

1学年25名

- 日本からの留学生への呼びかけ

英語が通じない外国人警察への訪問など手続きで困ったときに相談できる人をみつける。日本語学科には日本出身のHashimoto先生がいるので、スロバキアで何か困ったら声をかけてほしい



日本学科①

(Lena Kralikova Hashimoto先生、学生40名ほど)

- 日本語学科の志望動機

語学に対する興味、漫画やアニメ等の日本文化に興味など
アニメ等の日本文化はインターネットを介しての情報収集が多い

- 日本語学科での教育内容

隔年の受入で現在は2年生と4年生が在籍

使える日本語の学習を目的とするが古文、文学、歴史等の文化も学習する
日本語以外を習得した学生も多く、約半数が3ヶ国語を話せる

- 静岡大学に対する感想

教室にいる学生のうち、人文社会科学部に1年間留学経験のある学生が1名

3,4割の学生が静大への留学を希望

東京に近い立地条件の良さや、留学経験者の静大への好印象が理由か

静大からコメニウス大に留学している学生はスロバキア生活を楽しんでいる



日本学科②

- 留学に対する希望、将来設計など

留学先の大学で学べる内容をHP等で詳しく知りたい

スロバキアと日本の経済水準の違いからJASSOによる経済的支援が重要であり、それ以外の奨学金情報も貴重[Hashimoto先生]

留学中のアルバイト就労の可否、など勉学以外で生活面の情報も欲しい

日本語の翻訳者になりたい、日本語を使った仕事に就きたいという希望

- 学生と話しての感想

語学力に個人差はあるが、日本に対しての好意的な印象は強く受けた

静大への留学経験者が静大、静岡を気に入り次の静大留学希望につながったのは、学生や教職員など静大関係者のホスピタリティの賜物



日本学科③

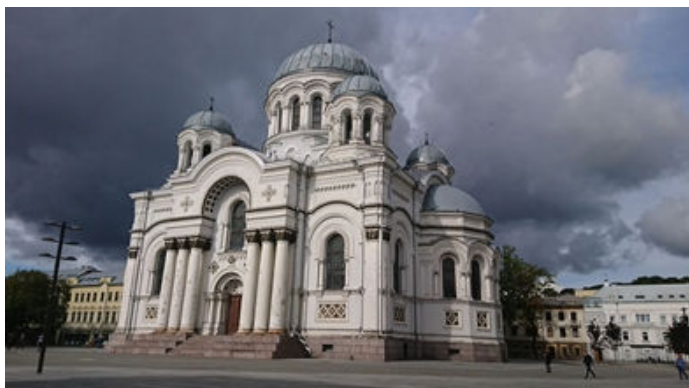
- 日本学科訪問後、有志の学生4名とHashimoto先生に
コメニウス大学からホテルまでのブラチスラバ市街地を
ご案内いただきました

静大人文に留学経験のある学生、日本語学科で一番日本語が堪能だった学生、
現在もIT系企業で働き日本でIT系の学位を取りたい学生、日本に留学し東京や京都
に行ってみたいという4名。

途中、大学キャンパスから離れた図書館にも立ち寄り
日本語と英語で話をしながら散策。



文化研修（カウナス・ブラチスラバ）



聖ミカエル教会



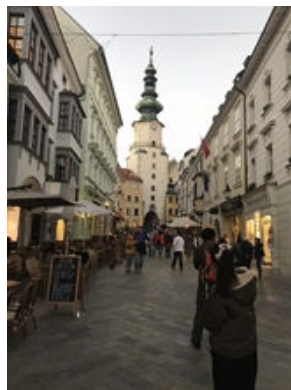
夜のカウナス城



日本を経由して世界各地に移動したユダヤ人の足跡（SUGIHARA HOUSE）



チュミル像



ミハエル門



デヴィーン城



ブラチスラバ城

全体の感想・まとめ

増田智史

創造科学技術大学院、電子工学研究所の事務職員を代表してInter Academia2018の見学、ならびに大使館と協定校から留学事情や海外大学の運営に関する情報収集ができ、業務に対する知見を広める貴重な機会となりました。Inter Academia2018では電研所属の先生方に同行し、日常業務では書面確認に留まる学会や長距離旅程を自身も体感したこと、研究者としての活躍の場を目の当たりにできたことは、机上では得られぬ経験でした。大使館訪問は形式的な内容に終始するのでは、という事前の懸念と異なり、外交官の視点ならでの現地の歴史、文化まで幅広く興味深いお話をいただくとともに、静大からコメニウス大学への多数の留学生派遣実績を記憶していただく好機となりました。一方、協定校訪問、特にカウナス工科大学では自身の従事経験と直結しない内容での知識不足と語学力の貧弱さもあいまって理解不十分のところもありました。現時点では研修に期待される水準を満たしたとは言い難いですが、研修目的の一つを至らぬ部分を捉え解消する契機とするならば、研修の成果がどう出るかは今後の自分次第かと思えます。

森部圭亮

カウナス工科大学のDepartment for Internationalisationにて、大学が費用負担して導入している「English Language Course」を教職員が受講するかは個人の自由だと前置きがあった上で、「If you want to survive, if you want to teach, if you want to stay, if you want to improve」と語気を強めておっしゃっていたのが強く印象に残っている。今回の研修に派遣されたのは多少なり英語力を期待されたからと捉えているが、まともに英語でやり取りできた機会は数えるほどで、求められた自分の役割を十分果たせなかったと考えている。特にリスニングが問題で、先方の簡単な挨拶でも聞き返してしまう有り様で、迷惑をかけてしまった。英語力に限った話ではないが、「生き残るため、大学職員として留まるため、よりよく仕事ができるようになるため」に日々、自分ができることを増やし続けたいと改めて思えたことが、個人的な最大の収穫である。

勝又美枝

今回の研修では、リトアニアとスロバキアの2ヶ国を訪問しました。研修を通して、海外の大学運営の実情を知ることが出来たこと、そして静岡大学が留学先としてニーズがあるのか、外国の学生さんから見た印象を知ることが出来て良かったと思えます。カウナス工科大学で実施されている職員トレーニングや、またコメニウス大学日本語学科学生から聞いた留学先への要望については静岡大学の運営にも生かすことが出来るのではないかと思います。しかし、同時に自分の語学力の無さと積極性の足りなさを痛感した研修でもありました。事前に語学研修を受講させて頂いたものの、いざ英語で会話をすると上手くコミュニケーションが取れず、また自分から積極的に話しかけることも出来ませんでした。この経験から、今後は語学勉強に意欲的に取り組み、普段の業務でも自分の意見を躊躇せず発言できるよう自分を変えていこうと思いました。

謝辞

今回の研修にあたり、カウナス工科大学の担当者と事前調整並びにご同行いただいたライアン優子先生、コメニウス大学の担当者と事前調整をしていただいた松田紀子先生、取りまとめいただいた職員課および国際交流課の皆様に心より感謝申し上げます。